

市民学習会

中身を見て考えよう

中学校道徳教科書採択の前に

中学校道徳教科書の採択が今夏に行われるのを前に、6月10日(日)、道徳の市民学習会が高石市と和泉市で行われました。「子どもと教科書大阪ネット21」代表委員・出版労連事務局長の永石幸司さんを講師に招き、「評価してもいいの？生徒の心へ来年度から中学校も『道徳』が教科になります」と題して講演していただきました。

政府の考えを
押しつける

学習会では中学校道徳教科書の特徴を挙げながら、さまざまな教材の気になる点や問題点について学びました。



全体的な特徴としては、

「主として集団や社会との関わりに関すること」

の項目が多く、きまりやルールを疑わずに遵守することや、愛国心をもつことを強制するかのような教材・設問が多くなっています。

また、長文の教材が多く、学習指導要領が定める22の項目を網羅しなければなりません。考える道徳を実践するには時間が足りないのではないかと永石さんは指摘しました。

明らかな誤記がある教科書もあります。歴史、

法律、科学などの専門家によるチェックを受けないうまま検定を通ったようです。虚偽の内容であっても、道徳では検定意見なしで通ってしまう可能性があると指摘もありました。

教材をよく見て
考えると・・・

一つひとつの教材を取り上げて見てみると、「正解」に誘導するかのような表現や設問が見られます。たとえば2社が2年生で扱っている「国」という教材では、「球場での国旗掲揚の際には起立してほしい」というのはあくまで王貞治氏の意見なのに、唯一の正解に見えてしまいます。多様な意見の一つであるはずの個人の意見が、政府の意見として無批判に刷り



込まれる危険性があります。

表面的な日本礼賛が散見されることも気になります。1社が3年生で扱っている「外国から見た日本人」という教材では、東日本大震災直後の日本人の礼儀正しさを海外の報道から褒めたたえています。設問の中に「あなたは、世界の人たちに胸を張れるどんな日本人になりたいですか。」というものがありません。年々増える外国籍の子どもたちのことを全く考えていない問いではないでしょうか。これらの他にもさまざまな指摘がありました。

多面的な見方を
問う教材も

一方で、多面的なものとこの見方を提示する教材として「ジコチユウ」、「桃太郎の鬼退治」、「私のせいじゃない」、「ゴミ収集場所はどこに」などが紹介されました。子どもたちが深く考えることができる授業をつくりやすい教材ではないでしょうか。

感想文用紙より

▼今の学校で、子どもたちも、先生方も、ますます息苦しく、しめつけられていることを、報告や発言から強く感じました。教育の問題をもっと多くの人と考え、話し合う機会がもてたらなと思います。特に現場の先生方はとても大変な状況だと思いますが、保護者の人たちと道徳、指導要領のことを話し合い考えられたらと思います。

▼道徳を教科にして指導するとは、どう考えても一方的な考えの押しつけ

私たちが
使う教科書を
私たちの手で

教科書展示・閲覧や学校巡回はすでに始まっています。どの教科書の、どの教材について、どう思うのか、意見を書いて提出することが出来ます。私たち教職員が、「どの教科書を使って授業を行うのか」ということに関心を持ち、積極的に意見を教育委員会に届けることが大切ではないでしょうか。



泉北教組に加入して子どもと教育を守ろう！